

## 塩浜学園の先生方と若者たちへのメッセージ（第6弾）

「生徒たちは、よく聞いていました。今後、ゆっくりと理解していくと思います。」授業終了後に松井校長先生からこんな言葉をいただいた。

若い世代と一緒に年金について考えたい。そんな想いが、様々な縁を繋ぎ、たどり着いた塩浜学園。



30年前、自分が中学生だった時分を思い出し、古めかしく、でもどこか懐かしい感じのする学び舎を想像しながら向かったその先に現れたのは、とても新しく、モダンな校舎だった。

7月のうだるような暑さで消耗していたはずの体力は瞬時に回復し、中学生に年金の授業をしてわかってもらえるのだろうかという緊張感も何処吹く風。心地の良い「塩浜の風」に吹かれながら年金の授業が始まった。

自分が何歳まで生きるか予想できますか？老後にどれくらいお金が必要か、考えたことはありますか？今の1万円のものが、将来、いくらになるか予想できますか？そんな質問を投げかけながら、「年金って必要なのか、自分たちで老後に備えて貯金すればいいのではないか」というよくある疑問に答えていく。さらに「年金って将来今よりももらえなくなるのではないか、破綻するのではないか」という疑問。この疑問への答えはマクロ経済学を習得していないと理解するのが難しい難問である。でも、生徒の目はきらきらしていた。はっきりとではないかもしれないが、分かろうとしてくれている、いや理解してくれている。私は確かな手応えを感じた。

タイトルは「みんなで創る年金の未来」。年金は将来の人口、経済、労働市場などの影響を受けて変わるもの。中学生のみんなが将来社会人になって、どういう日本の経済社会を創っていくか、それによって年金の未来が変わる、みんなで年金の未来を創っていこう、そんなメッセージをこのタイトルに込めた。

「ゆっくりと理解していく」。松井校長先生の言葉に私は気がつかされた。塩浜学園の8年2組のみんなとは二度と会えないかもしれない、この出会いを絶対に無駄にはできない。だから、1度に全てを理解してもらいたいという気持ちが強すぎたかもしれない。



塩浜学園との出会いは、私に重要なことを教えてくれた。ゆっくり理解してもらうための授業。次回は、そんな想いを込めて塩浜の地を訪れたい。そして塩浜学園のみんなと年金について考えたい。

厚生労働省年金広報企画室長より